

芸術の秋に338点の力作が勢ぞろい

東京2020参画プログラム
第17回鹿嶋市芸術祭



▲8部門・338点の作品が並ぶ会場



▲「welcomeドール もうすぐクリスマス」(手芸の部)

10月23日から28日までの期間、第17回鹿嶋市芸術祭がまちづくり市民センター体育館で開催されました。

この事業は、市民の創作活動の発表の場を設けるとともに、市民に広く芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の向上を図ることを目的に、鹿嶋市および鹿嶋市教育委員会が開催したものです。

会場では、絵画、書、写真、工芸、手芸、華道、和紙絵、自由創作の8部門、総計338点の作品が展示されました。花や人物を色彩豊かに描いた絵画をはじめ、祭りの風景

やいきいきとした子どもたちの一瞬を切り取った写真など、それぞれの作品に

は豊かな感性が存分に表現されていました。また、和歌や唐詩などの書や、工芸品の菩薩像や花器などのほか、さまざまな色と素材を生かした手芸品には、細部にわたる技術やこだわりを感じました。



▲「ふくろう」(工芸の部)

来場者は、作品を前に立ち止まり、時間をかけて静かに鑑賞し芸術の秋を堪能していました。



古川博士の気象コラム



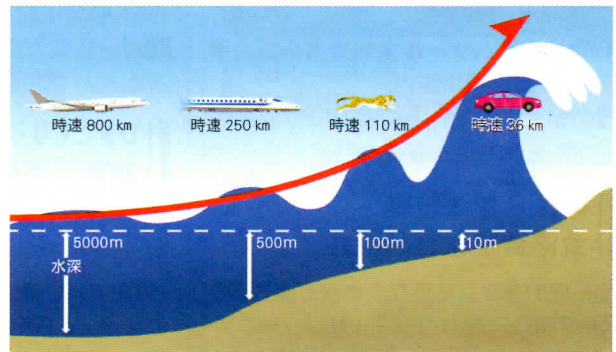
古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

「鹿島七不思議」の一つに「要石」があります。地震を起こす地下の大鯰を鹿島神宮の要石が押さえているという伝説です。昔から鹿島地方は岩盤が固く比較的地震が少ないと言われ、その被害の少なさが「要石」伝説につながったのでしょうか。

気象庁では、全国約4,200カ所に設置されている計測震度計の観測結果を基に津波警報などを発表しています。県内には102カ所あり、市内には鉢形と宮中に設置されています。

地震の際、何と言っても警戒すべきは津波です。平成23年3月の東日本大地震で太平洋沿岸を襲った大津波は約15,000人も命を奪い、鹿島港でも高さ5mに達しました。

津波は、地震で海底の地盤が急激に隆起または沈降し、海水が波となって周囲に伝播する現象です。



▲津波の速度と高さの関係 (出典：気象庁)

寄せては返す波とは根本的に異なり、海の底から表面まで全層が動くことで起こります。

津波には、水深が深いほど速く伝わる性質があり、水深5,000mの沖合ではジェット機並みのスピードですが、水深10mでは自動車並みになります。津波が陸に近づくとつれ、後から来る波が前の波に追いつくことで海面が高く壁のように立ち上がり、激流となって陸地に流れ込みます。

地震の揺れを感じたら、まずは港や岸边から離れて高台に避難し、津波の有無を確認するなど、早めに次の行動に移りましょう。また、普段から津波が来たときの避難場所を家族や学校などで確認しておくことが重要です。

[市の花] はまなす



[市の木] 松



[市の鳥] きじ



広報 **かしま**

平成30年11月15日 No.584

【発行】鹿嶋市 〒314-8655 茨城県鹿嶋市大字平井1187-1

【編集】政策企画部 広報推進課

☎ 0299-82-2911(代表) ☎ 0299-82-0789

🌐 <http://city.kashima.ibaraki.jp/>

✉ kouhou1@city.ibaraki-kashima.lg.jp



市公式ホームページ
(スマートフォン用)

マチイロ

～もっと鹿嶋が好きになる～

アプリで広報かしま
や市ホームページの
新着情報を確認でき
ます。



▲ダウンロード用
QRコード